

但馬牛にまつわる言い伝え

但馬牛の世界で昔から伝えられてきた言葉の数々を
4コマまんがで分かりやすく解説します。

大きな牛は
但馬牛じゃない？

三味って？

良い牛の
見分け方は？

牛は毛もの？

制作 但馬牛博物館

画 おかのりこ

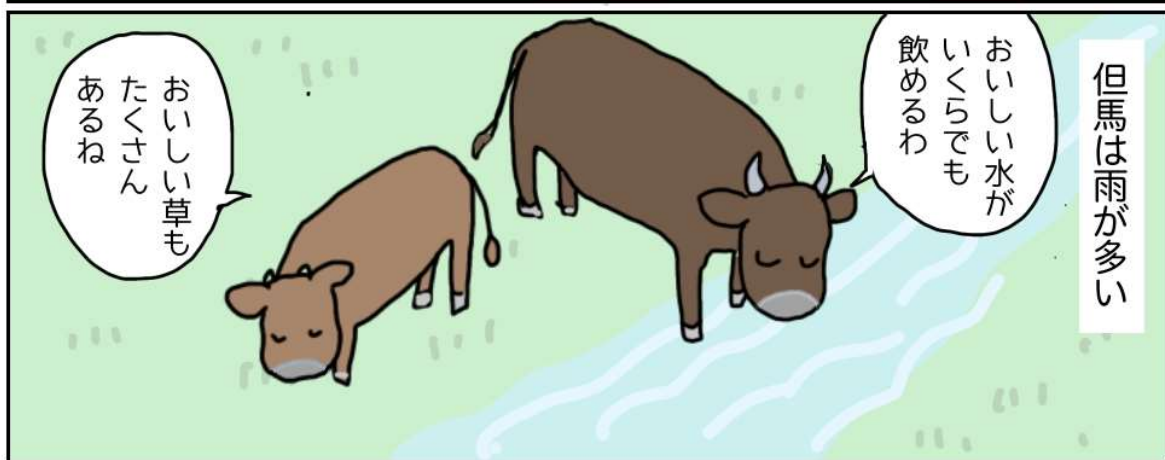
あ 持って生まれた質と味、飽きのこめのが但馬牛

但馬牛は、上品な顔、引き締まった体、細やかな毛、柔肌が特長である。肉は抜群の肉質で口当たりがよく超美味しい。その生体をずっと眺めていても飽きないし、肉も何度食べても飽きがこないことを意味する。



但馬牛は風土の産物

但馬は山地が多い豪雪地域。雨が多く清らかな水があり、夏は昼夜の寒暖差が大きく、夜露が降り、豊富な野草がある。この特徴ある自然の中で、脈々と育まれてきたのが但馬牛で、まさに風土の産物と言える。



水良きところに良牛あり

山深い美方郡の地形と気候風土は、清らかな水をたたえ、その水が流れ出る地域に和牛のルーツと言える但馬牛が育ってきた。まさに良い水の出る美方の地は但馬牛の原産地。良牛の産地となっている。



牛は勝手にできるものではなく、飼主の考え方や飼い方によってできる牛が変わる。優れた血統と能力を持つ牛を匠の技で選り育てることによって良牛となる。但馬牛は但馬の人々が造った逸品である。



牛は山でつくり草で飼う

＝牛は山で飼い草で育つ
＝牛は草の化身

牛は山で飼い

夏の間
牛たちは山に
放牧されます

山は広くて
楽しい

足腰も
強くなるんだよ

草で育つ

但馬の山には
牛たちの好きな草が
たくさんあります

お腹いっぱい
食べるんだよ

もぐもぐ
もぐもぐ

いっぱい遊んだら
お腹すいちゃった

冬も干し草を
ひたすら食べます

おいしいねえ

もぐもぐ
もぐもぐ

お母さん
今日もご馳走
だね！

但馬の野山の
草のおかげで
こんなに立派に
育つんです！

但馬牛は体格が小さく粗食に耐えられるので、野草だけでも飼うことができます。但馬の山々の豊富な野草を食べさせ、放牧によって十分に能力を発揮することができます。牛の飼育には草が最も重要である。

牛は家の宝

かつて但馬の農家では、牛で田んぼを耕し、米の収入と毎年生まれる子牛の販売収入、冬場の出稼ぎが、家計の大きな助けになってきた。牛は農家の生活には貴重な存在であり、一家の宝として可愛がられた。



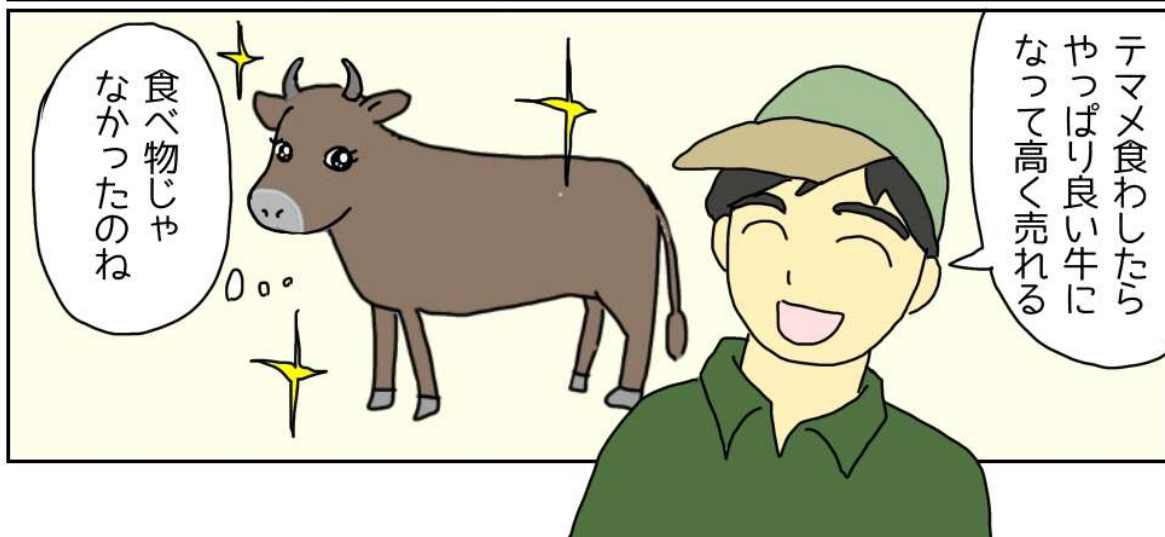
牛のことは牛に訊け^き =牛のことは牛に学ぶべし =牛と話をする

牛飼いな人とは、毎年良い子牛を産ませ、丈夫に育てて高価格の子牛を出荷できる人である。日頃から牛の身になって考え行動し、牛の反応をよく見て飼育の方を変えていくことの積み重ねが大事である。



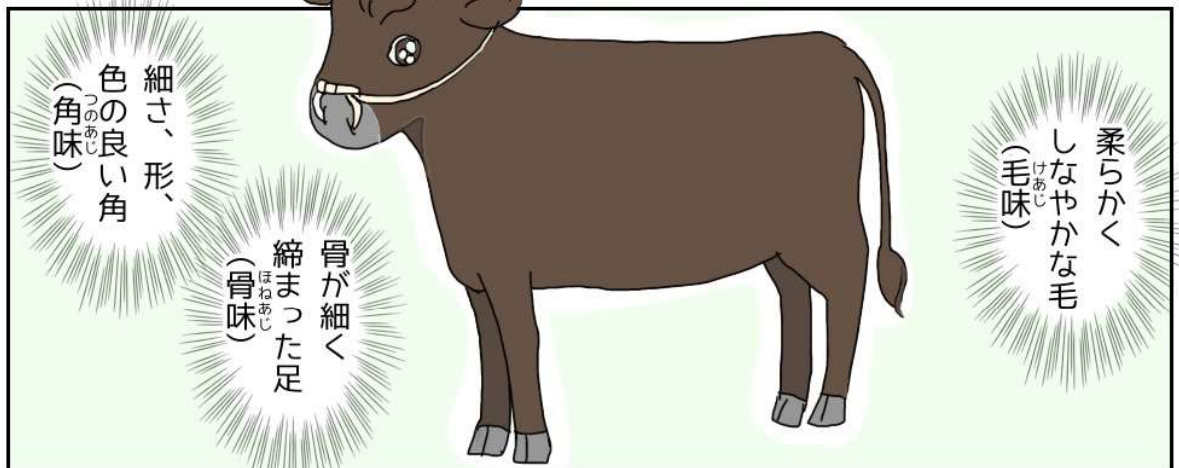
牛にテマメを食わす = 牛にマメを食わす

普段から牛へのエサの与え方や管理など、牛が快適に暮らせるように、行き届いた世話をすることをいう。テマメを食わせた牛は健康ですくすく育ち、良牛となり高価格で売れ、恩返しをしてくれるものである。



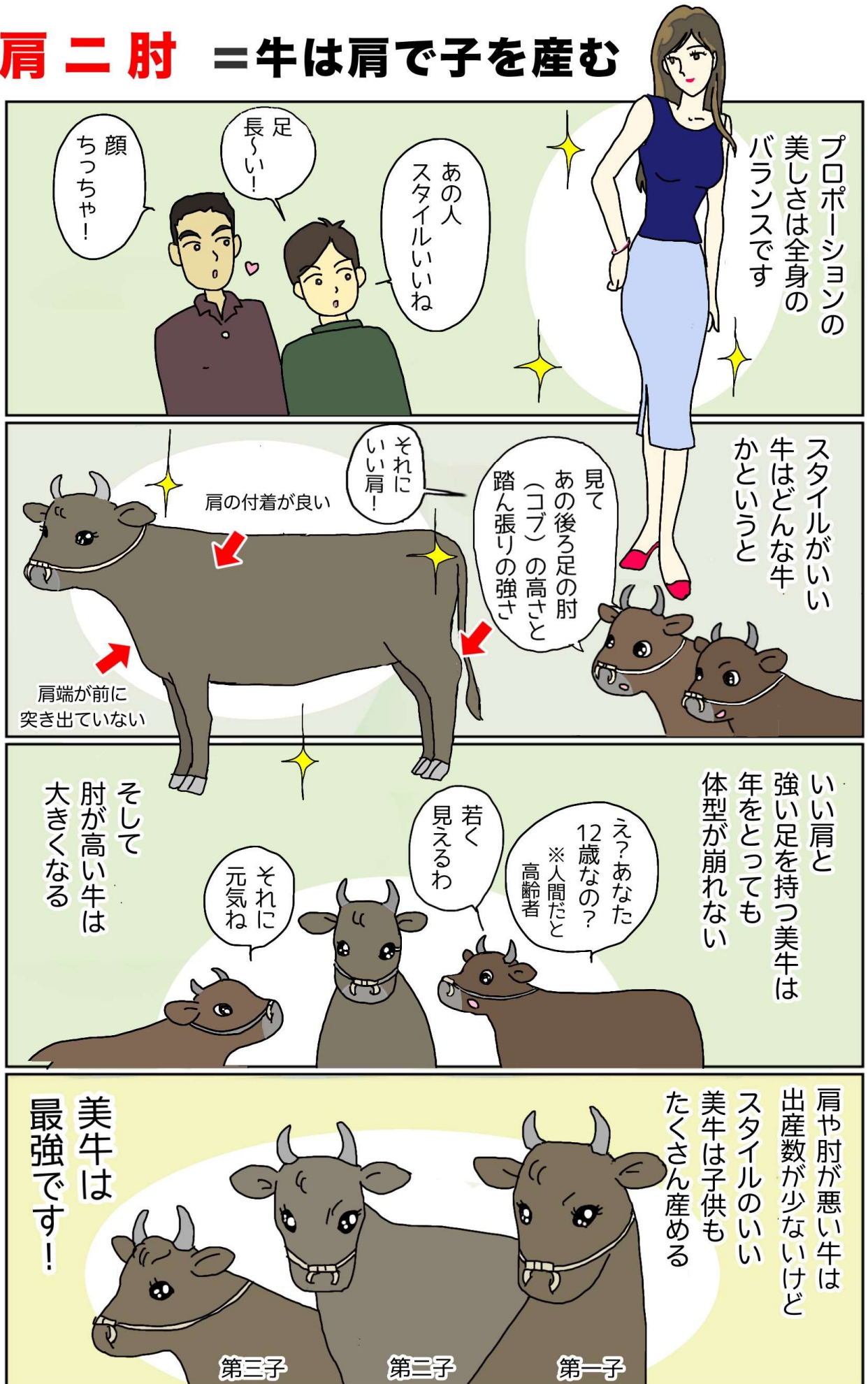
三味良ければ肉質良し (毛味・角味・骨味)

毛質を毛味、角質を角味、足の骨の締まり具合を骨味という。毛は密生して柔らか、角は細目で丸く藍色を帯びた黒色、骨は細いのが良い。三味が良い肉牛は肉質が良い。三味の良い雌牛の産子もその肉質が良い。



一肩二肘 = 牛は肩で子を産む

繁殖用の雌牛を選ぶには、まず第一に肩の形の良いもの、第二に肘の位置が高くしっかりと立てるものを選ぶことが大事である。肩付が良く足の強い牛は、長命で連産し、体型の良い子牛を産むことが期待できる。



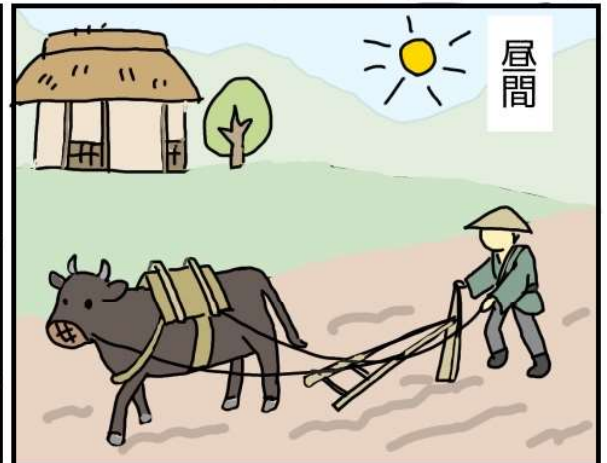
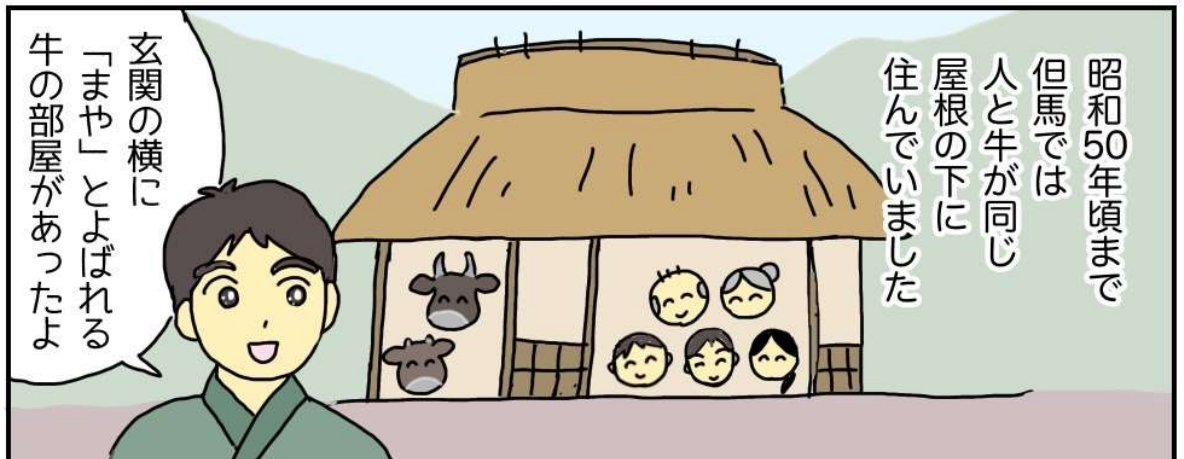
牛は毛モノ

但馬牛は毛質が良くてなんぼのものである。ただし、普段はおとなしく人に従順に見える牛でも、産後や驚いた時は突然豹変し、獣となって人を襲ってくることもあるので気をつけよ、との2つの意味がある。



牛と顔をつきあわせて暮らす

美方地域の農家では母屋に牛の部屋（まや）があるのが一般的で、土間を挟み人の部屋と牛の部屋があり、障子を開けると牛の顔が見え、人と牛が一つの屋根の下で家族同様に暮らしてきた歴史がある。



親を見て子を取れ

繁殖用として子牛を選ぶときは、その母牛をよく調べておくことが大事であり、体型や資質品位、遺伝的産肉能力もよく確認してから決めるのが良い。トンビがタカを産んだような子牛は避けて、良い母牛の子を導入するべきである。



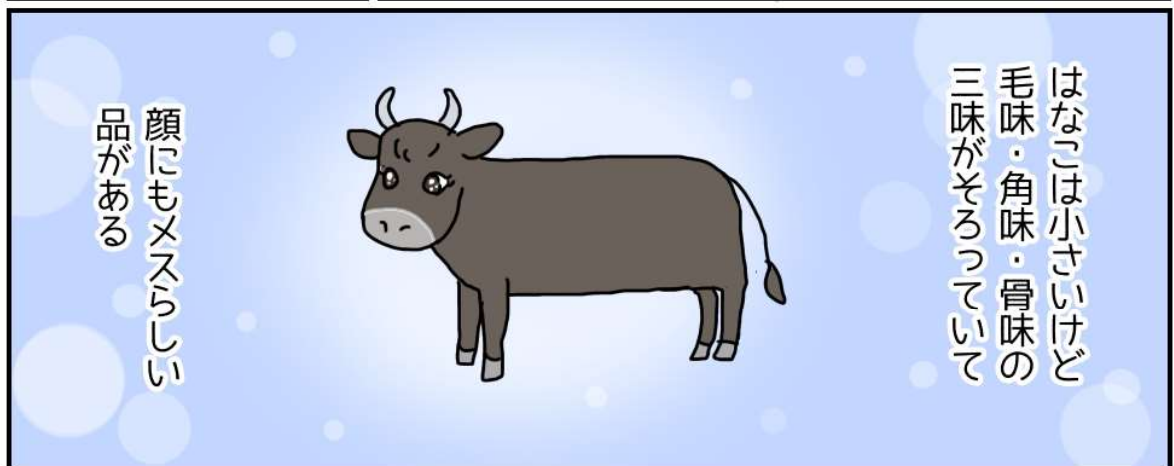
親を見て子は育つ

子牛の性格などが母牛に似ることから言われた格言。離乳までは親子で同居するのが普通であるが、子牛は母牛の行動を真似しながら育つので、大きくなるにしたがって性格や嗜好性などが母牛に似てくるものである。



大きな牛は但馬牛にあらず

美方郡の中でも小代地区おしろの家畜商たちは、伝統的に牛の評価の最重要ポイントが資質品位であり、大きさは二の次、小さくて当たり前。大きな牛は品位に欠けるとして低い評価をしていた。



牛と選挙は運動しだい



牛は外に出して運動させると体型が良くなる。特にひき運動すると格段に良い体型へと変わり、品評会でも上位に入賞できるようになる。議員の選挙活動も選挙活動がしっかりしていれば当選確率も上がるものである。

行きはよいよい帰りは走る

牛は手綱をつけて歩かせるひき運動に連れ出すと、往路はおとなしく歩くが、復路は一目散に走って帰ろうとする。手綱を持つ人は走る牛を引き止めるのが大変となる。一周コースなら同じペースで歩かせることができる。



角を矯めて牛を殺す

むかし、但馬の国に
優しいおじいさんと
ちょっと欲張りな
おじいさんが
住んでいました

うちの牛は
とてもいい牛だが
角の形が少し悪い

うちの牛
角の形が
いまひとつ

無理やりにも
角の形をかえて
格好よくしてやる

そしたら高く
売れるんじゃない

欲張りじいさん

うちは
このくらいなら
我慢するよ

優しいおじいさん

角の形を直そうとした
牛は元気がなくなり
やがて病気になりました

げっそり...

そのままにした牛は
すくすくと育ち
それなりの値段で
売れました

牛の基本は
健康あつてのこと

今日も
さんぽだ

それから
欲張りじいさんは
牛の健康第一に
考える牛飼いに
なったとか

めでた
めでた

小さな欠点を直そうとして、かえって全体をだめにしてしまうこと。少しだけ形の悪い牛の角を無理やり格好よく直そうとして、かえって牛を死なせてしまい、肝心な根本をだめにしてしまう事の意味になる。※「矯める」は「矯正する」の意。